

ピカソに影響を受けた芸術家:岡本 太郎

2年 組 番 名 前

目当て 岡本太郎の作品の鑑賞を通して表現の意図と工夫、美術の働きについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

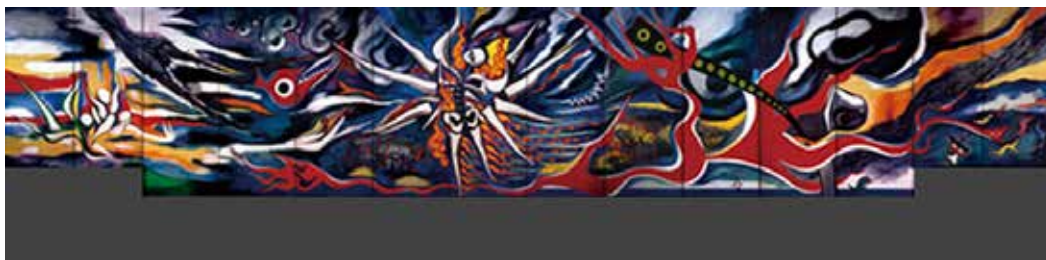
今回はピカソのキュビズムについて学びました。ピカソはそれらを基にした活動が評価され「20最大の芸術家」と呼ばれるほどでした。ピカソの活動は後世の多くの芸術家にも大きな影響を与えました。今日はその1人の岡本太郎について鑑賞をします。休校が延長され鑑賞の課題が続きますが、頑張りましょう。

岡本太郎とは 1911年-1996年

岡本太郎は日本を代表する芸術家の1人です。大阪万博のシンボルとされている「太陽の塔」(図②)や渋谷駅の「明日の神話」(図③)をはじめとして多数の作品を制作しました。他にも「芸術は爆発だ」のフレーズでも有名です。岡本太郎は1930年(昭和5年)から1940年(昭和15年)までフランスで過ごし、その時にピカソの作品に出会い、強く惹かれたそうです。そこからピカソのように新しい考え方で芸術に向き合い、「対極主義」という考え方で作品を制作するようになりました。



図③



図②



岡本太郎の思想「対極主義」とは

岡本太郎が提唱する「対極主義」とは、当たり前やそれまでの常識など既存のイデオロギーや様式にあえて、それに反する「対極的」な考え方をぶつけ、一つの作品に詰め込みます。その矛盾(つじつまが合わないこと)から生まれる緊張感が、見た人にその矛盾について考えさせ、新しい考えが生まれて前に進むことが出来るという考え方です。

例を挙げて説明すると図④は「対極主義」の考え方で作られた岡本太郎の作品「森の掟」です。この作品はジャングルのような深い緑の森を、切り裂くような真っ赤な怪獣。小さな生き物を捕食する獰猛な怪獣の背には、着ぐるみのようなファスナーが光り、それが「作り物」であることを示しています。これは当時の自然環境を犠牲に成長していく人々へ疑問を投げかける作品だと言われています。このように正反対の色や形、モチーフを作品の中でぶつけ合い社会や人々に訴えかけるものが「対極主義」と言われています。

図④



「芸術は爆発だ」という言葉もそれまでの美しさを重視する芸術との矛盾から新しい考え方を生み出そうという考え方による発言だったのかもしれませんが、又それはピカソの新しいことに取り組もうという姿勢と似たものがあると思います。

課題

下の図⑤は岡本太郎が描いた代表作の1つ「傷ましき腕」という作品です。上記の解説を踏まえて、この作品を鑑賞しこの作品は何を訴えかけているのか自分なりの考えを下の枠に記入しなさい。(正解を書くことが重要ではありません。自分で考えて書くことが重要です)(用紙が印刷できない生徒は自分で用意した用紙に言葉と図で書きましょう)

図⑤

